

議事概要	
会議の名称	令和5年度第2回長久手市文化の家運営委員会
開催日時	令和6年1月24日（水）午後6時30分から午後8時まで
開催場所	長久手市文化の家 企画室A・B
出席者氏名 （委員50音順、敬称略）	<p>【委員】</p> 梶田美香 加藤千恵 川北真紀子 小林大地 佐藤文子 野田かなえ 安原雅之
	<p>【事務局】</p> 生涯学習課 担当課長兼文化の家館長 生田創 事業係長 黒野雅直 施設係長 近藤一英 施設係専門員 水谷一義 施設係主任 野田悠子
欠席者	浅野芳夫委員、大村真也委員、鈴木香代子委員
傍聴者人数	0人
会議公開・非公開	公開
概要	1 報告事項 (1) 令和5年度施設管理運営報告 (2) 令和5年度（12月分まで）事業報告 (3) 特定天井等改修工事について 2 議題 令和6年度長久手市文化の家自主事業計画書について 3 その他

議事録	
事務局	1 あいさつ 館長あいさつ
事務局	本会議は、過半数の委員が出席しているため、成立していることを報告。ここから議事進行を委員長に願います。

<p>委員長</p>	<p>会議の事前打ち合わせの場で、事務局から市役所各課との連携事業など、直営ならではの事例を多く教えてもらった。長久手市は9月から新しい市長となった。新市長の方向性と文化の家が連動していけるとよい。地域の文化力が試される時代になったので、今後の動きに期待したい。</p>
<p>事務局</p>	<p><b>2 報告事項</b></p> <p><b>(1) 令和5年度施設管理運営報告</b></p> <p>(【資料1】に基づき、説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>今年度末時点での入館者数はどのくらいと見込んでいるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>概ね昨年度同程度と見込んでいる。</p>
<p>事務局</p>	<p><b>(2) 令和5年度（12月分まで）事業報告</b></p> <p>(【資料2】に基づき、説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>会議の度に感じるが、常に事業数を多く取り組んでいる。</p>
<p>委員</p>	<p>自分も会議の度に同じことを言っているが、文化の家事業は充実した量、質である。報告書の中でアンケート未実施となっている事業がいくつかあるがどのような状況か。</p>
<p>事務局</p>	<p>トワイライトダンスでは、屋外で実施したこともあり、アンケートを配布する前にお客様が帰ってしまった。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケート実施結果を受けた見直し等、PDCA サイクルはできているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>事業内容を検討する際に参考になっている。</p>
<p>委員</p>	<p>事業実施後に課題となっていることはあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>広報面で反省することが多い。委員の発言にもあるが、事業本数が多く、広報が行き届かない。もっと情報を届けられる場所があっ</p>

	たのではないか、と思うことがある。
委員長	来場者はリピーターが多いと思うが、新規開拓はどのようにしているか。
事務局	例えば、川上ミネさんのコンサートでは、自然をテーマに取り上げていたため、自然保全活動に取り組む人にも声かけを行った。
委員長	長久手市内の情報を把握できているのが、直営の強みである。その強みをぜひ広報面にも生かしてほしい。
委員	文化の家事業は質の高い公演がそろっている。鑑賞後に「もっとこの公演を見るべき人、届けたい人がいたのに……」と残念に思うところがある。事務局が「なぜこの公演を見るべきなのか」を言語化できていないのではないか。公演内容に合わせてアプローチ先を考えることも必要である。文化の家がおすすめるものは必ず良いものだと感じている。言語化に取り組んでほしい。
委員	広報については、2021年の「おんぱく」くらいのしつこさがあってもよいのではないか。SNS等で少々しつこいと感じるくらいがよい。直営の強みに関連することで1つ話題提供したい。川上ミネさんのコンサートの際に、事業担当者が取材中に川で昆虫採集している子どもを見かけ、その子が作った昆虫標本を文化の家館内で展示することになった、という事例を聞いた。
事務局	コンサートで上映する映像を撮影しているときに出会った。長久手で採集した昆虫の標本作りに取り組んでいるとのことだった。コンサートの趣旨にも合致していたので、会場での展示を提案した。その子にとっても、文化の家にとってもお互いに良い効果が生まれた。
委員	行政なのに、柔軟な発想や対応ができるのが素晴らしいと思った。
事務局	本人の周りにも良い影響があったようだ。学校の先生や友達、家族からも興味を持ってもらえた。文化の家と関わったことが、本人の世界が広がることに繋がった。

委員	そのような場所がすぐ身近にあることが良いことだと思う。
委員	今のエピソードはぜひ多くの人に広めてほしい。
事務局	映像と音で紡ぐコンサートだが、放映した映像の半分以上は事務局で作成した。撮影のために担当者は市内各所に出かけていった。出かけた先でたくさんの出会いがあった。職員自身にも学びに繋がっていた。
事務局	まちに出て情報を取りに行く重要性も学んだ。
委員	事業本数も多く、稼働率も高い。さらに挑戦もしていることから、文化の家は素晴らしいと思う。
委員	準備段階での職員の取り組みや現場の声を知れる機会があるとよいと思った。愛知県陶磁美術館がこまめに活動を発信している。参考にしてほしい。
事務局	委員が取り上げた事例のような出来事は、自分たちにとって日常となっていて、特別なことだと思わなかった。アピールすべき部分と認識していないことが多い。
委員	自分が作品を作るときも同じようなことがある。作品を展示して、お客さんの反応やお客さんの言語化で気づかされることがある。
委員長	第三者の視点がとても重要である。
委員	自分では言語化が難しいのかもしれない。芸術分野において、キュレーターの存在が重要視されている。訓練を受けた結果ではなく、自然にキュレーション能力が身につき、自発的な職員のアイデアを周りが阻止しない環境ができている証拠である。人材育成としてとても良い事例だ。
委員長	他分野が融合する事例が多いと感じた。昆虫採集の少年は、文化や芸術とっていないはず。文化が生活の中にあると気づけた事例だろう。

委員	組織アイデンティティを感じられる事例。さらに言語化できていくとよい。
委員長	高い専門性があっても言語化できないと、質を高めることも継続していくことが難しい。事例研究や言語化に取り組んでほしい。
委員	文化の家は、自分がやりたいことをやりたいだけやらせてくれる場所だった。
	<b>(3) 特定天井等改修工事について</b>
事務局	(【資料3】に基づき、説明)
委員長	休館期間はどのくらいか。
事務局	ホールは令和7年1月から令和8年3月。アトリビングは、令和7年1月から9月まで。アトリビングについては、ホールに先行して令和7年10月から利用再開できる見込みである。
委員長	設計業者が施工もするのか。設計は建設当初の業者か。
事務局	設計業者は建設時と同じ(有)香山建築研究所である。施工業者は入札によって決まるため、まだわからない。
委員長	休館中の事業はどのようなか。
事務局	アウトリーチを充実させたい。劇場に来たくても来れない人もいる。そのような人たちにもアプローチしていきたい。また、生涯学習課の業務として生涯学習プランの策定を予定している。文化の家に新しい客層を取り込むための空間活用事業にも取り組みたい。
委員	再開後のホール公演につながるアウトリーチにも期待したい。
委員長	アウトリーチ出演者の拠点確保はできるか。
事務局	工事が入らない部屋で行う予定である。

	<p><b>3 議題</b> <b>令和6年度長久手市文化の家自主事業計画書について</b></p>
事務局	<p>(【資料4】に基づき、説明)</p>
委員長	<p>劇場でのアーカイブ事業は珍しい。貴重であることを自覚し、発信してほしい。記念誌も幅広い人に読んでもらえるようにしてほしい。</p>
事務局	<p>文化の家に関わった人にインタビューをしたり、寄稿してもらったりしている。25年前に文化の家を作るときに奮闘した人から、事業や運営に関わってきた市民たちも記事として登場する。人に着目し、文化の家に対する思いを記念誌として残そうと作成している。</p>
委員長	<p>配布を予定しているのか。</p>
事務局	<p>販売を予定している。関係先には寄贈することも考えている。また、制作費をふるさと納税を活用したクラウドファンディングで集めている。返礼品の一つに記念誌がある。</p>
委員長	<p>劇場関係者が参考にできるようになるとよい。</p>
委員	<p>全国の劇場関係者にこのクラウドファンディングを知ってもらえるように取り組んでほしい。</p>
事務局	<p>市民をはじめ多くの人に読んでほしいが、記念誌作成当初から、まず全国の劇場関係者を想定した。苦勞している関係者が多いと思うので、参考にしてほしいと思っている。</p> <p>以上で本日の議事を終了とする。進行を事務局にお返しする。</p> <p>本日の会議は、以上で終了する。</p>